福島県浪江町が、原子力発電所事故により全町民 2 万 1 千人の避難を強いられてから、3 年半が過ぎようとしております。

原発事故以前は、お隣同士“わきあいあい”の団らんで、コミュニティが形成され、“日々是好日”の暮らしをしておりました。しかし事故後、家族はバラバラにされ、社会の絆は絶たれ、慣れない土地での生活を強いられるとともに、生業の道まで喪失させられたのです。これらの現状は、普通の営みができない惨状を示し、生命も脅かされ、個人の自由をもはく奪され、国民として、個人としての権利が侵されていることを示しております。

これらは全て放射能の脅威がもたらしたものです。国民をこのような悲惨な境遇に貶める原子力発電や原水爆は、人類の生命と健康、そして人権をも脅かす存在であることを、日本と世界が決して忘れることの無いよう、私たちの経験と思いを、懸命に発信し続けなければなりません。

原水爆禁止 2014 年世界大会を通じて、多くの人々が核の危険と放射能の脅威を改めて心に刻み、行動してくださることを心から期待いたします。

福島県浪江町長　　馬　場　　有